



一貫コース通信

ライト兄弟はなぜ飛べたのか

私は小さい頃、なぜかライト兄弟[アメリカ：ウィルバー・ライト(1867-1912)/オービル・ライト(1871-1948)]に魅了され、伝記を読んでいた時期があった。好きな偉人は誰ですかと聞かれた時に、よく「ライト兄弟」と答えていたことを今でも覚えている。そして大学に進学した時には、何の縁があつてか、研究室配属先の教授がライト兄弟についての本を執筆していたのである。この通信の中ですべてを語ることは難しいが、「偉人から何を学ぶのか」ということをお話できればと思っている。

人間にとって、いつの時代も「空を飛ぶ」ことは夢であった。2000年以上昔のギリシア神話の中には、翼を身に付けて飛び上がったイカロスが、大空を飛ぶことに夢中になり、太陽に近づき過ぎた結果、羽をとめていたロウが溶け、海に墜落して死んでしまったという逸話があるほどだ。その人類の長年の夢が叶ったのは、1903年12月17日のことである。その日、ライト兄弟は世界で初めての有人飛行(動力付き飛行機)に成功した。2人が空を目指したきっかけは、子どものころにプロペラのおもちゃで遊んだことだと言われている。そこから30年近くの年月をかけて空を飛んだのだ。驚くことにライト兄弟は高校を中退していて、さらには自転車屋が本業であり、飛行機に関しては専門でも何でもなかった。しかし飛行機の開発に至っては、専門家も及ばないような科学的姿勢を貫いていた。二人の努力でいまから120年ほど前に「人間が空を飛ぶ」ことが可能になった。現代の航空機はこれからもどんどん進化を遂げていくと思うが、どんなに進歩しても、ライト兄弟が人類ではじめて飛行機で空を飛んだ栄光は、決して色褪せることはないだろう。

科学的な探究の姿勢以上にライト兄弟の凄いところは同じ夢を持ち続けたことである。人間が空を飛ぶことは可能に違いないと信じ、時間とエネルギーと資金を費やして研究を実行していった。彼らだって実験の失敗続きで元気を無くすこともあつただろう。飛ぶための揚力が出せず、墜落続きだった1901年には、「人間が飛べるようになるまであと**50年はかかる。**」と嘆いていたほどだ。それでも研究をやめずに2年後の1903年には出口を見つけた。実現が難しそうなことでもライト兄弟のようにまずは「やってみよう」という気持ちがあれば何も始まらない。はじめの一步が肝心だ。目標に向けた自分の頑張りが少しでも報われたときは、ライト兄弟が初めて飛行に成功した喜びを想像してみたい。その先のあなたの未来がまた切り開かれることでしょう。

...と、きれいごとを並べているが、私自身がライト兄弟のように野心を持ち続け何かに没頭する青年だったかということそんなことはない。それは今の私にも言えることかもしれない。

ただ、先生という職に就きたいというのは小学生の頃から思い続けていたので、それは一つ自分の人生の中で叶えることができた。

次は、ただなつて終わりではなく、あり続けそして何を学ぶかが大切だと思っている。

ライト兄弟はなぜ飛べたのか。

そこに現代人が“いま”を生きるヒントがある。

